

# 語人声天

古書の世界は  
奥が深い。値段  
もピンからキリ  
にわたる。二束  
三文の投げ売り

もあれば、値の張る稀観きこう本もある。漱石の『吾輩わが輩は猫である』の初版などは、上中下そろった美本だと300万円ばかりするらしい▼名高い『猫』もたまげるような、とびきりの「稀観本」を、国土交通省が秘蔵している。と聞いた。1冊あたりの制作費は約3千万円。海外的道路事情の報告書だが、内容は猫もまたぐお粗末らしい。カネの出どころは、あの道路特定財源である▼民主党の細野豪志衆院議員が調べ上げ、国会で質問した。国土交通省が「国際建設技術協会」なる団体に、9千万円余で発注した。むしろOBの天下り先である。3カ月ほどでまとめ上げた、3部しか製本しなかつた。そもそも誰も読まない前提としか思えない▼中身の多くは、世界銀行の資料やインターネッ卜事典などからの拝借という。独自の分析や考察は見あたらない。「天下り先を養うためだけの報告書。税金が自分の金であるかのような錯覚がしみついている」と細野氏は憤る▼税の蜜壺みつばちに無数のストローが、巧妙に突っ込まれている。これと誰しも想像がつく。かくて公金は「かけ流し」の湯のように、暗い溝に落ちていく▼へ役人は人民の召使である」と漱石の猫は作中で言う。続けて、権力を笠に着るうちに勘違いして、人民など何ほどでもなくなつてくると公僕精神の退廃を嘆いている。それから1世紀。猫の嘆きに細野氏の怒りが重なる百年。ぶりが、やりきれない。